

群馬県立太田東高等学校 学校評価一覽表①

(令和2年度版)

羅 針 盤	
評価対象	評価項目
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。
	2 ボランティア活動に生徒が積極的に取り組んでいますか。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。
	7 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導	8 計画的な指導を行っていますか。
	9 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。
V 開かれた学校づくりに努めますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。
	11 保護者、地域社会は学校の教育活動に理解を示してくれますか。

方 策
①ステップアップサポート事業を活用し、幅広い学力を付けさせる授業の実践を行うとともに、55分授業を活かし、授業内での言語活動の充実を図る。
②生徒の進路意識向上や学習への動機付けとなるよう、探究活動を工夫して行わせる。
③授業を充実させるとともに、特別活動や部活動などの活性化を図る。
④ボランティアの意義について理解を深めるようにし、多くの生徒の参加をうながす。
⑤言語活動を充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業展開を行う。
⑥習熟度別授業や少人数制授業のよさを十分に生かすとともに全ての学力層の生徒に対応した授業を行う。
⑦基礎基本の定着を図るとともに、適切な課題配布や課外授業によりそれらを活用できる指導を行う。
⑧進路講演会や二者面談等を行い、生徒に適切な目標をもたせ学習への自覚をうながす。
⑨係職員と係生徒が中心となり、登下校時の交通指導や交通安全教室等を行うとともに、全職員が積極的に指導に関わる。
⑩生徒とコミュニケーションをとり、積極的に清掃に取り組む環境を作る。
⑪遅刻者記入カードを活用し、遅刻常習者には保護者と連携して、個別の指導・支援を行う。
⑫「保健だより」で健康面を、「教育相談」や二者面談等で精神面を支え生徒の一般的な学校生活を支援する。
⑬いじめ早期発見に向け、生徒観察、校内巡視及び定期生活アンケート等を行う。また、生徒が悩み等を相談しやすい環境作りに努める。
⑭進路希望調査や模試結果などを通して、生徒の進路希望・適性・学力等を資料化し、認識を共有する。
⑮進路通信の情報発信に加えて、年次ごとの進路講演会や集会での連絡を効果的に実施する。
⑯キャリア教育に関する行事の際に、事前事後の指導を徹底するとともにその成果と課題を検証する。
⑰「公開みらい学」、学校説明会、オープンスクールなどを効果的に実施するとともに、積極的、計画的に広報活動を行う。
⑱学校説明会等で学校案内、広報紙を配布するなどして、本校の教育活動を紹介するとともに、ホームページを充実させる。
⑲本校の教育活動について積極的に情報発信し、理解と協力を求める。

第1回 点検・評価			第2回 点検・評価		
自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
B	C	コロナ禍で授業進度優先のためステップアップサポート事業も縮小しての実施であるが、その趣旨を理解し、職員一丸となって授業改善に当たる。また、授業改善委員会の有効活用を模索・検討していく。	B	C	コロナ禍の授業では、話し合いや討論等がやりにくい状況が続いている。現状での言語活動や対話的活動の工夫を検討していく。
B	C	年度当初から綿密な計画を組んでいたがコロナ禍で破算となり、新たに計画を組み直している。	C	C	来年度に向けて、コロナ禍の中でも実現可能な内容を早急に検討する。
C	C	コロナ禍で多くの学校行事が縮小されている。充実した学校生活を支援していく。	C	C	オンラインや分散等を工夫し、感染症対策を講じたうえで、可能な行事を検討する。
—	—	コロナ禍のため今現在実施していない。3学期に多少感染が治まれば実施したいと考えている。	—	—	コロナ禍による太田市の警戒度も最高レベルであり、現時点では実施は出来ない。
B	C	共通テスト対策も兼ねて、言語活動および思考力・判断力の育成が必要である。対話形式の授業等がやりにくい中であるが、現在の取り組みを継続していく。	B	C	言語活動の一つとして、対話するばかりでなく、「書く」ことによるやり取りなども検討し、アウトプットの方法を検討する。
B	C	習熟度授業や少人数授業は活用されているが、コロナ禍でペアワークやグループワークをすることが難しくなっている。今後はICTの活用を進めたい。	B	C	コロナ禍でペアワーク等やりにくい中、ICT機器の活用と一人一台端末の活用を進めていく。
C	C	授業時数の確保はもちろんだが、演習の時間も取り入れて校外模試でもある程度の成績を目指させたい。	C	C	進路目標そのものを引き上げることに伴い、学習意欲の向上を促したい。
A	B	コロナ禍による授業不足に対する危機感からか、家庭学習時間は増加。適切な課題を提供し、継続させる。	B	C	昨年度よりは増加したので、今後も定期的に年次集会などで進路意識を高めていく。
C	B	より一層、交通ルールを遵守させるために、定期的に係職員で下校時交通指導を行う。	B	B	下校時交通指導を継続して取り組んでいく。
B	B	家庭で清掃を行っている生徒は少なく、清掃のやり方について監督からの適切な指示が有効となる。	B	B	全教職員一丸となって生徒の自律的態度の育成に努める。清掃用具置き場の清掃、用具の管理等をきちんと行う。
B	B	担任の対応だけでなく、全教職員が一丸となって指導に当たる。	B	B	生徒指導部と連携して指導に当たる。また、生徒の自己管理能力を育成する。
B	B	各種感染症の予防指導を含め生徒自身が健康管理に関わる知識を活用できるように働きかけを行う。	B	B	今まで以上に保健便り等を通じて生徒に情報を提供する。
B	B	日頃から全教職員がアンテナを高くもち、生徒観察や状況把握に努め、情報共有を図る。生徒の相談には、真剣に向き合い話を聴く。	B	B	各委員会と連携して、「スマホ利用ルール」や「スローガン」、「SNSに頼らない人間関係づくり活動」のより一層の充実を図る。
B	B	学校再開時の二者面談は効果的であった。今後も進路目標を明確化させる面談を各年次で工夫する。	B	B	生徒がより向上心をもてる面接ができるよう、担任の進路指導スキルを上げる。
A	B	進路通信および各年次集会で進路関係の発信が増えたが、今後はより計画的な情報提供を心がける。	A	B	激変する大学入試状況の、より迅速・的確な情報提供を行う体制及び方法を構築する。
B	C	コロナ禍でほとんどのキャリア教育を実施できていない。今後は面談等も利用しながら進路目標を設定させ、それに向かって努力させる。	B	B	コロナ禍の中でも実施可能なキャリア教育を早急に検討し、生徒の進路意識を高めていく。
B	B	中学校での進路講演会や中学校訪問などとおして、本校生徒の様子・実態を知ってもらうとともに、学校の特色を広報する機会を充実させる。	B	B	引き続き中学校での進路講演会や中学校訪問の機会を効果的に活かせるよう説明の内容や方法を工夫していく。
B	B	学校案内や広報誌（今年度は年1回）を作成し、関係中学校へ郵送したり中学校での進路講演会や中学校訪問などで配布し本校の特色を広くPRしていく。	B	B	学校案内の内容を充実し、発信媒体を見直す。また、配布の機会を効果的に活かせるよう配布先などを見直す。
A	B	本校ホームページでの学校説明を充実させ本校生徒の日々の活動の姿をより積極的に伝えていく。	A	B	ホームページの内容を随時更新し本校生徒の日常の姿を発信し、併せて中学校の進路講演会や説明会等で周知していく。